

都・建設予定地 生活記 (13)

あまり良く知られていないインドの西・グジャラート州で生活しながら、なんとかこの片田舎を都にしてみようと足掻く僕的生活記。

年末年始といえ、日本では一番のお休みだろう。クリスマスあたりからどんどんと、年の瀬に向けてテレビ番組も特別編成に切り替わり、忘年会が続き、実家に帰り、除夜の鐘がどこかで鳴って、そうやって新しい年がやって来る。新しい年を迎えたら、初詣へ行き、正月太りを体現するようにおせちを食べ、酒を飲み、こたつの中で眠りながら、だらだらと過ごす。これこそが、典型的な正月の過ごし方だと思う。

年越しをインドで迎えるのは四回目になる（もっとも、これを書いている時点ではまだ年が明けていないので、正確には「四回になるはずだ」だけ）。留学中に一回、仕事でこちらに来てからが三回だ。

最初のインド正月、つまりデリーに留学していた時は、それなりに頑張って正月感を出したのを覚えている。INA マーケットへ買い出しに行き、あったものでお節っぽいのを作ったし、酒も買い込んで昼間から飲んでた。テレビを見ながら、友達とゆっくり過ごした記憶がある。誘われて初詣にも行った。まあ、シク教寺院だったけれど。

二回目は、グジャラートでの初めての正月だった。僕が日本語を教えている大学は、一月一日も平常運転で、ただの平日だった。年越しの瞬間から一時間くらいは、学生がはしゃいでいたのだが、翌日は普通に授業に出てきていたのだから、インドにとっての年明けは「ディーワリー」の方なんだろうな、となんとなく思ったのを覚えている。僕は授業がなかったから、平和に過ごしていた。お節はないけれど、隠し持っていたお酒も飲んだ気がする。あと初詣にもやっぱり行った。確か、この時はヒンドゥー寺院。今、気になって「初詣」の Wikipedia を見たら、「年が明けてから初めて神社や寺院などに参拝する行事」と書いてあったから、ヒンドゥー「寺院」でも初詣だ。

去年はいつの間にか年が明けていた。年越しそばは炊飯器で作ってみたけれど（なにしろキッチンがない）、ほかになにか食べたわけでもなければ、お酒も飲んだわけでもない。初詣にも行かなかった。ただ後輩がグジャラートまでやってきてくれたので、新年早々、アーメダバードの観光スポットであるアダラジ階段井戸へ行った。こうなるともう、正月はあんまり関係なくなってくる。

ディーワリーでお祝いもしたし、長く休んだし、なんなら「ハッピーニューイヤー」はディーワリー明けに口にしたし、一月一日は休みじゃないし、すっかりディーワリーが新年っぽくなってしまったな、なんて思った。

2016年の正月をどうやって過ごすのか、僕はまだ決めていない。正月はまたなんとなく過ぎていくような気がする。でもまあ、典型的な正月ではないけれど、正月は正月だ。ハッピーニューイヤーはディーワーリー明けのものになってしまったけれど、正月にはもっとふさわしい挨拶がある。ということで、ようやく新年のご挨拶を。

あけましておめでとうございます。本年もまた、よろしく申し上げます。

プロフィール：滝口浩平

2010年から約1年間のデリー留学を経て、東京外大ヒンディー語専攻卒業。色々あって塾・予備校の市進に雇われ、また色々あってインド現地法人 Ichishin India Consultant.Pvt.Ltd 社員となる。更に色々あって日本語教師として Pandit Denndayal Petroleum University (PDPU) で教鞭をとる。第29回織田作之助青春賞受賞。